

輸入検疫で発見されるコナジラミ類について

コナジラミ類はカメムシ目コナジラミ科に属する微小な昆虫で、幼虫・成虫とも植物に寄生して吸汁する。吸汁による直接加害に加え、分泌される甘露によりすす病が引き起こされることや、ウイルスを伝搬することが知られている。多くの昆虫類は成虫の形態で分類・同定されるが、コナジラミ類は主に蛹（4 齢幼虫）の形態で分類・同定されるグループである。

日本では 29 属 66 種が知られ、世界で 161 属 1,556 種が記載されている。農作物へは、オンシツコナジラミやタバココナジラミによる被害報告が多く、輸入検疫の現場でも、世界各地から輸入される植物に寄生したコナジラミ類がたびたび発見されている。ここでは、日本未発生のコナジラミで、輸入検疫での発見事例が多い 5 種について紹介する。

***Aleyrodes proletella* (Linnaeus)**

タマナコナジラミ（新称）

英名は Cabbage whitefly。アブラナ科作物の害虫として有名であるが、キク科、トウダイグサ科等 12 科にわたる植物を加害することが報告されている。ヨーロッパ原産と考えられるが、1975 年にはニュージーランド、1990 年代には台湾、オーストラリア、2001 年には米国カリフォルニア州でそれぞれ発生が確認され、分布地域を広げている。輸入検疫ではヨーロッパ産のサボイキャベツやメキャベツ、オーストラリア産のサボイキャ



図 1 寄生状況



図 2 蛹

ベツから発見されている。

蛹は体長 1.3 mm 程度、淡い黄色で葉裏に密生していることが多い（図 1）。背面に目立った刺毛はない。タバココナジラミ



図 3 成虫

に比べて本種はより円形に近く、尾端にある 1 対の刺毛も目立たない（図 2）。成虫は頭部から翅端まで 1.8mm 程度、タバココナジラミやオンシツコナジラミに比べ大型で、翅に薄い 2 つの黒色斑点を持つことが特徴である（図 3）。

***Aleurocanthus woglumi* Ashby**

ミカンクロトゲコナジラミ

英名は Citrus blackfly。ミカン科植物の害虫であるが、ミカン科を含め 35 科の植物を加害することが報告されている。アジア、南北アメリカ、アフリカ等に広く分布する。輸入検疫ではタイ、ラオス産のコブミカン（*Citrus hystrix*）の葉から発見されている。

蛹は体長 1.4mm 程度、黒色でキチン化し、背面に顕著な刺毛（亜縁部に通常 11 対）を備える（図 4）。虫体の周囲に少量の口ウ質物を分泌する。

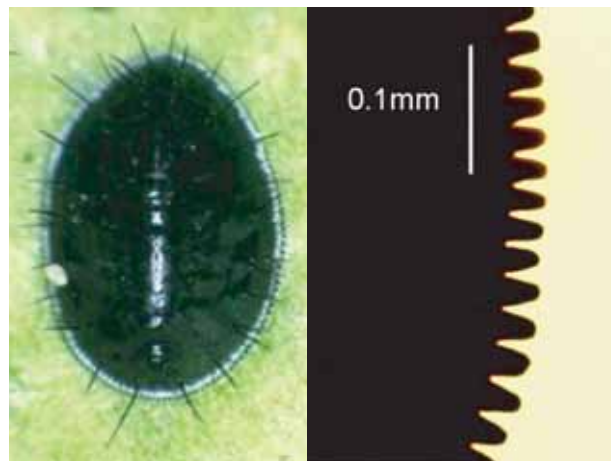


図 4 蛹

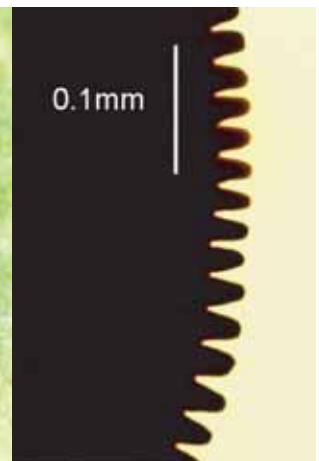


図 5 歯状突起

ミカン科植物の害虫で日本にも分布しているミカントゲコナジラミ *Aleurocanthus spiniferus* (Quaintance) は本種に非常によく似るが、外縁にある歯状突起は小さく 0.1mm 幅に 7 ~ 12 個程度並ぶ。これに対しミカンクロトゲコナジラミでは、歯状突起は大きく 0.1mm 幅に 3.5 ~ 5 個程度が並ぶ (図 5)。

***Aleurocanthus citripertus*
Quaintance & Baker**

ミカン科植物の害虫であり、アジアに分布する。輸入検疫ではタイ、ラオス産のコブミカンの葉から発見されている。

蛹は体長 1.3 mm 程度、黒色でキチン化し、背面に顕著な刺毛を備える (図 6)。亜縁部に通常 16 対、そのうち腹部のものは長短が交互に生え、短いものは長い毛よりやや内側から生じる (図 7)。虫体の周囲に少量の口ウ質物を分泌する。

本種は、上述のミカンクロトゲコナジラミ、ミカントゲコナジラミに類似するが、亜縁部にある刺毛が 16 対と多いことで区別できる。

***Aleurotuba jelinekii* (Flaenfeld)**

ビバーナムコナジラミ (新称)

英名は、Viburnum whitefly。スイカズラ科ガマズミ属 (*Viburnum*) の害虫であるが、ツツジ科、フトモモ科植物にも寄生する。ヨーロッパ、地中海諸国に分布し、米国カリフォルニア州でも発生の報告がある。輸入検疫ではイタリア産のガマズミ



図 6 蛹



図 7 腹部亜縁部刺毛



図 8 蛹

属切り枝から発見されている。

蛹は体長 1.3mm 程度、黒色でキチン化し、背面に 4 対の顕著な角状の突起を備える。通常、角状突起及び体周に、白色の口ウ質物を装う (図 8,9)。Aleurotuba 属には本種 1 種のみが記載されている。



図 9 角状突起 (後胸)

***Dialeuropora decempuncta*
(Quaintance & Baker)**

フトモモ科、バラ科等を含む 12 科の植物を加害する広食性の害虫である。アジア及び大洋州に広く分布する。輸入検疫では文献上、寄主植物の記録がないタイ産キンマ (Piperbetle) の葉から発見される。

蛹は平坦で体長 0.9mm 程度、虫体が透明で寄生葉と同化してしまうため発見しにくい。背面に目立った刺毛は見られないが、蛍光色で青色に光る口ウ質物を糸状に装うことがある (図 10)。また、プレパラート標本では背面に顕著な 5 対の分泌孔 (図 11) が認められ、亜縁部には短い槍状刺毛 (図 12) が 12 対みられる。

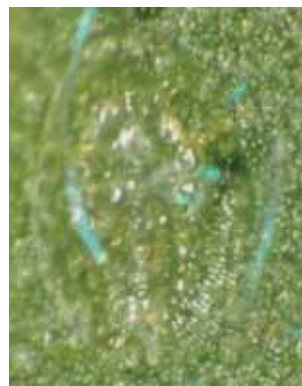


図 10 蛹

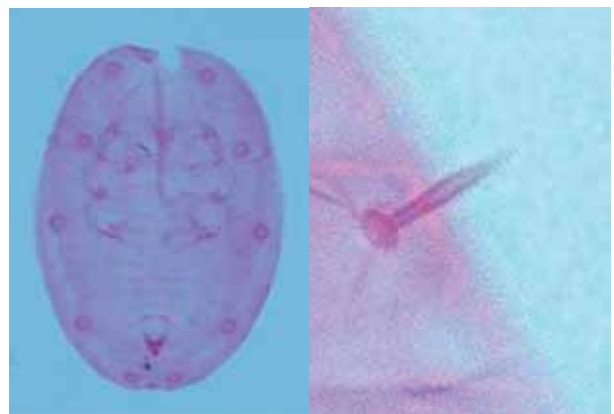


図 11 蛹 (プレパラート)

図 12 槍状刺毛